

2020/10/14

令和3年度（春）の海外派遣留学を希望している皆さんへ

令和3年度春からの留学計画について

新型コロナウイルス（COVID-19）の流行に対して、我が国では、各種の「Go To キャンペーン」が実施されたり、原則として全ての国・地域からの外国人留学生を含む中長期在留者について新規入国が認められたりするなど、ウィズコロナ/アフター・コロナでの経済活動や国際交流の再活性化に向けた動きが始まっています。皆さんの中には、海外派遣留学の実現に向けた明るい兆しと感じている方もおられることと思います。しかし、皆さんが希望する留学先である海外諸国に目を転じてみると、状況はとても楽観できるものではありません。2020年10月上旬において、米国では相変わらず感染者は増加し続けていますし、イギリス、フランス、スペイン、ベルギーなど欧州諸国では、一旦は収まりつつあるかに見えていた新型コロナウイルス感染が再び急速に拡大してきており、新たな規制の導入も検討されています。

本年4月13日付けの「留学計画見直しのお願い」でお伝えしたように、私たち神戸大学経済学部・大学院経済学研究科は、海外大学との教育面・研究面での連携を重視しており、多数の海外有力大学と交流協定を締結して、多くの学生の皆さんの海外への勇躍を後押ししてきました。海外留学に向けた皆さんの情熱をサポートしていきたいという私たちの気持ちは今後も変わることはありません。

しかし、「神戸大学国際交流危機管理マニュアル（令和2年9月版）」では、外務省の危険情報レベル2以上の国・地域への派遣は原則中止などとなっており、これらの基準と新型コロナウイルスの諸外国での流行状況とを照らし合わせて考えると、皆さんの健康と安全を確保しながら令和3年度春からの新たな海外派遣留学に対する支援を実施することは極めて困難であると言わざるを得ません。（2020年10月1日現在、159の国と地域について「感染症危険情報」は「レベル3」、その他の国も「レベル2」となっており、「レベル1」以下の国はありません。）

令和3年度春からの海外派遣留学を予定している皆さんには、計画の延期あるいは計画の中止といった見直しを強くお願いいたします。4月に続いて再度こうしたお願いをしなければならないことは誠に残念かつ心苦しいかぎりです。事態の深刻さと状況の困難をご理解の上、皆さんが適切な計画見直しを行ってくださるようお願い申し上げます。

神戸大学大学院経済学研究科長・経済学部長
中西 訓嗣